

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis.jp/ir/e-koukoku/index.html ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

ホームページのご案内

当社ホームページには、会社情報やサービス紹介、ニュースリリースといった基本的な情報はもちろん、株主・投資家情報では、経営情報、財務ハイライトなどの情報をご覧いただけます。是非ご覧ください。

<http://www.ajis.jp>



(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、
株主の皆様への利益還元のひとつとして
株主優待制度を実施しております。

割当
基準日 9月末日

優待内容

100株以上
1,000株未満所有

お米券
3kg

1,000株以上
10,000株未満所有

お米券
5kg

10,000株以上
所有

お米券
10kg



※当社は、2017年4月1日に1:2の株式分割を行いました。なお、分割後も優待条件は変更しておりません。

株式会社エイジス

証券コード：4659



AJIS

Your Partner in Retail Solutions

第40期 報告書

2016年4月1日 ― 2017年3月31日

エイジスグループは2017年5月にグループロゴを刷新しました。詳しくは4頁をご覧ください。



AJIS

株式会社エイジス

〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL:043-350-0888 FAX:043-350-0800

グループ経営理念

MISSION

エイジスグループは、
プロフェッショナルとしてお客様に最高のサービスを提供することにより、
チェーンストアの発展と豊かな社会の実現に貢献します

VISION

「日本を代表する棚卸のエイジス」から
「アジアを代表するリテイルサポートサービスのエイジスグループ」へ

VALUES

誠 実

個人の尊重

顧客主義

現場主義

挑 戦

トップインタビュー



『日本の棚卸のエイジス』から 『アジアのリテイルサポート グループ』への飛躍——

代表取締役社長 齋藤 昭生

T O P I N T E R V I E W

Q まずは、当期の事業環境と経営成績について
お聞かせください。

前期に続き当期も過去最高の売上高、
利益を達成いたしました。

当期の国内経済は、企業収益や雇用環境の改善等により景気は緩やかな回復基調をたどったものの、不透明な海外情勢に起因した為替変動等により、楽観視できない状況で推移しました。当社グループの主要顧客であります流通小売業界におきましては、消費者の節約志向や低価格志向が継続し、また、業種・業態を超えた競争の激化および人材確保が困難な状況が続くなど、依然当社にとって厳しい経

営環境でありました。

このような環境の下、当期の連結経営成績につきましては、4期連続で増収増益となり、さらに売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも2期連続で過去最高を更新しております。具体的な金額、数字を申し上げますと、売上高が25,829百万円と、初めて250億円を超え、営業利益および経常利益においても初めての30億円台、親会社株主に帰属する当期純利益も21億円と初めて20億円台を記録しました。また、自己資本利益率(ROE)は20.2%と、8期ぶりに20%台を記録しました。これにより、当期を最終年度と定め、途中において上方修正を行いました中期経営計画は、ほぼ達成できたと考えております。

また、株主の皆様への配当につきましては、当期の期末配当は、前期末配当より30円増配することとし、1株につき80円とさせていただきます。



セグメント別の状況を教えてください。

全てのセグメントで増益を果たすことができました。

事業セグメント別にご説明いたしますと、「国内棚卸サービス」におきましては、売上高は長時間労働の対応として繁忙時期における業務の受注を調整いたしました。その一部については閑散時期への移行ができたこともあり、前期と同水準となりました。また、中期課題と位置づけ、前期より取り組んでまいりました「収益力強化」につきましては、棚卸機器の入れ替えによるオペレーション効果は一巡いたしました。引き続き生産性が伸長し、セグメント利益は前期比10.3%の増益となりました。

「リテイルサポートサービス」につきましては、2016年4月に連結子会社であるエイジスタッフサービス株式会社が非連結関連会社

の株式会社プリズム・ジャパンを吸収合併し、エイジスマーチャングアイジングサービス株式会社と商号を変更しました。この合併効果もあり同社の売上高が大きく拡大し、またエイジスリサーチ株式会社も新規分野で大型受注に成功したことから、セグメント売上高は前期比55.6%の大幅増収となりました。これは、「リテイルサポートサービス」を「国内棚卸サービス」に次ぐ、新たな事業の柱として成長させるという、当社の方向性に合致したものであります。また、セグメント利益も前期比37.0%の大幅増益となりました。

最後に「海外棚卸サービス」ですが、期初には円高の影響を考慮し、「3%程度の微増収、同じく3%程度の微増益」を見込んでおりましたが、想定を上まわる円高の影響により売上高は前期比3.6%減収となりました。なお、現地通貨ベースでは前期比10.8%の増収となっております。また、セグメント利益につきましては前期比40.5%の大幅な増益となりました。前期に初めて黒字化したこのセグメントは、当期も収益性を大きく伸ばしました。『第40期中間報告書』において「当期は全ての海外連結子会社の黒字化を目指す」と申し上げましたが、全7社において黒字化を達成することができました。



2018年3月期の事業計画および新中期経営計画について教えてください。

売上高、各利益ともに過去最高の更新を目指します。

グループ全体の連結売上高については、前期比8.6%の増収となる28,050百万円を見込んでおります。セグメント別のそれぞれの対前期増収率は、「国内棚卸サービス」が4.0%、「海外棚卸サービス」が6.2%、「リテイルサポートサービス」が21.2%となっております。また、グループ全体の営業利益につきましては、前期比1.3%の増益となる3,100百万円を見込んでおります。

次期につきましては、「海外棚卸サービス」における韓国の連結子会社が決算期を12月に変更するため、同子会社は10ヵ月決算となり

ます。その減少要因が、売上高および利益に影響しておりますが、概ね、新しく定めた2017年度(2018年3月期)から2019年度(2020年3月期)の「新中期経営計画」に沿った数値となっております。

これにより、2018年3月期の売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益の各項目について、引き続き、過去最高を更新する計画となっております。

このたび策定いたしました「新中期経営計画」では、『『日本の棚卸のエイジス』から『アジアのリテイルサポートグループ』への飛躍』の土台作りという方針を掲げ、「国内棚卸サービス」においては「さらなる収益力の強化と成長セグメントへの投資の加速」、「海外棚卸サービス」では「安定した収益体制と規模拡大の土台固め」、「リテイルサポートサービス」では「これまでの商習慣を変化させ、チェーンストア全体の生産性をさらに高める」を、それぞれの目標としております。「リテイルサポートサービス」を確固たる第2の事業柱として育て上げ、「海外棚卸サービス」において、安定的な収益基盤を構築したうえで、次のステップである「グローバルに展開する総合的なリテイルサポートサービスのプロフェッショナル集団へ」の足掛かりとする準備を進めてまいります。そして、「新中期経営計画」の最終時点である2020年3月期においては、グループ全体の連結売上高として320億円(対2017年3月期比62億円、23.9%の増収)、また、連結営業利益率は11.3%を計画しております。

引き続き厳しい事業環境が続くと考えておりますが、さらに生産性を向上させ、グループの総力をもってこの計画を完遂する決意であります。



長時間労働解消に向けた取り組み状況について教えてください。

是正指導以降、真摯に取り組み、月間100時間超の長時間労働は解消しました。

千葉労働局長より、長時間労働について当社が是正指導を受けた

2016年5月19日以降、月間100時間を超える時間外・休日労働を行った従業員は一人もおりません。重大な経営課題として据え、「労働時間管理の徹底」「業務量の平準化」「業務の効率化」を重点に、トップである私を委員長として社内プロジェクトを断行し、具体的な施策を立案し徹底して取り組んでまいりました。当期は、そのため、繁忙期に一部の受注を調整すること行いましたが、『第40期中間報告書』において申し上げましたように、これらの施策が結果的に生産性の向上に寄与したことから、次期につきましては繁忙期の受注調整は行わずに法定労働時間を遵守できると考えております。



グループロゴを変更されましたが、この意図することは何でしょうか。

2018年、創業40周年を迎えるにあたり、エイジスの“チャレンジスピリット”を込めました。

当社は、棚卸サービスという新たなサービスを生み出し、そのパイオニア企業として、「棚卸のエイジス」と皆様よりご評価をいただく企業に成長することができました。私たちはこの現状に満足することなく、自らの殻を破り、新たな挑戦を続ける旗印として、グループ全体でこの新ロゴマークを使用してまいります。

イニシャル‘A’によるシンボルマークのモチーフはコンパスです。常に正確な方向へ向かっていくプロフェッショナル集団であり、お客様に寄り添うパートナーでありたいとの想いを込めたものです。

Your Partner in Retail Solutions アジアのチェーンストア・小売業のパートナーとしてお客様に『エイジスグループの活用が成功のカギである』と評価される存在を目指し、今後も挑戦を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みをご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当期の業績について
3つのポイント



- POINT 1

連結売上高、営業利益で過去最高を記録

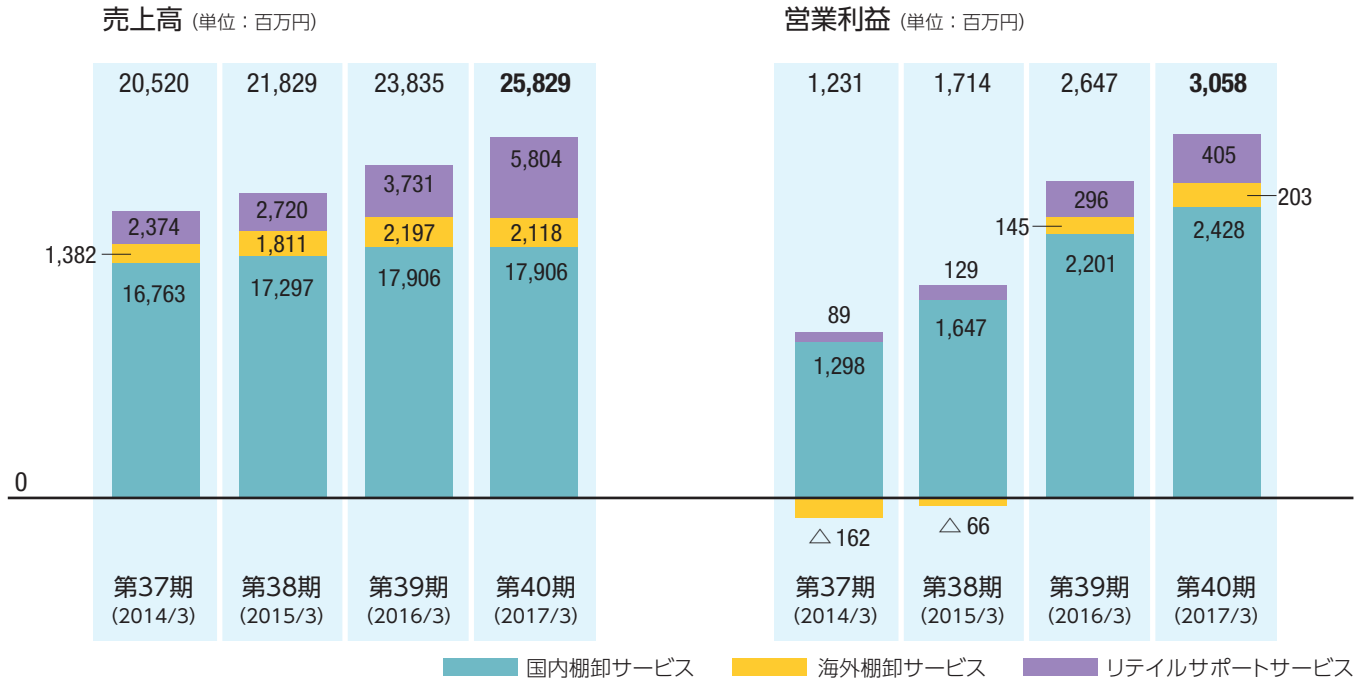
4期連続増収増益、2期連続で過去最高売上・利益を更新しました
- POINT 2

海外棚卸セグメントにおいて、全7社が黒字化

円高により減収となるも、利益は大幅増（現地通貨ベースでは10.8%増収）となりました
- POINT 3

リテイルサポートセグメントは合併により売上大幅伸長

合併前個社別でも売上は伸長。新規分野の大型受注もあり成長を続けています



国内棚卸サービス

主なサービス内容 当社の実地棚卸サービス事業

- 商品棚卸 ● 国内における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。
- 資産棚卸 ● 国内における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。
- その他 ● 単品棚卸システムを活用してPOSレジマスターに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

売 上 高	セグメント利益
17,906 百万円	2,428 百万円

長時間労働対策により売上は微増となるものの、生産性の向上と料率改善および販売管理費の圧縮により、前期比大幅な利益増となりました。



海外棚卸サービス

主なサービス内容 海外連結子会社の実地棚卸サービス事業

- 商品棚卸 ● 海外における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。
- 資産棚卸 ● 海外における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。
- その他 ● 単品棚卸システムを活用してPOSレジマスターに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

売 上 高	セグメント利益
2,118 百万円	203 百万円

売上高は現地通貨ベースでは前期比10.8%増加したものの、為替変動の影響により売上減となりました。利益面では、技術指導強化と棚卸機器の入れ替えを行い、および中国事業の本部機能の統合と拠点の統廃合により7社全てにおいて黒字化を達成し、収益改善が進みました。



リテイルサポートサービス

主なサービス内容 国内連結子会社のリテイルサポートサービス事業

- 人 材 派 遣 ● 流通小売業周辺業務およびその他軽作業業務へ要員を派遣するサービス。
- マーチャンダイジングサービス ● 棚割通りの棚替えや商品補充等により、売場作りを行うサービス。
- カスタマーサービス・チェック ● 店舗における従業員の接客サービスレベルとストアコンディションを覆面調査員が調査するサービス。

売 上 高	セグメント利益
5,804 百万円	405 百万円

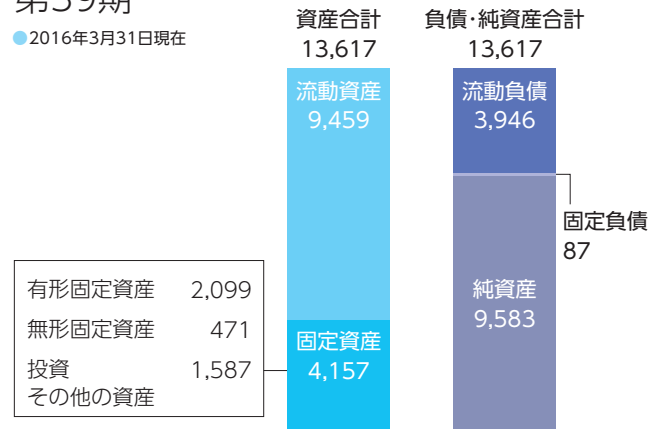
エイジスマーチャンダイジングサービス株式会社においては合併効果と既存サービスの受注増により大幅に売上が増加しました。エイジスリサーチ株式会社は新規分野の大型受注により増収となりました。

貸借対照表の概要

(単位：百万円)

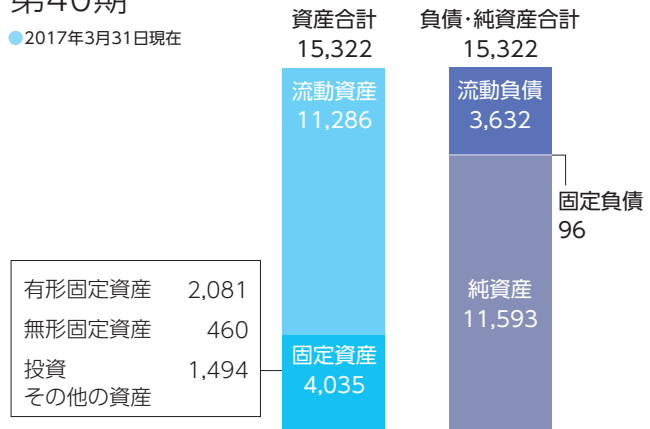
第39期

● 2016年3月31日現在



第40期

● 2017年3月31日現在

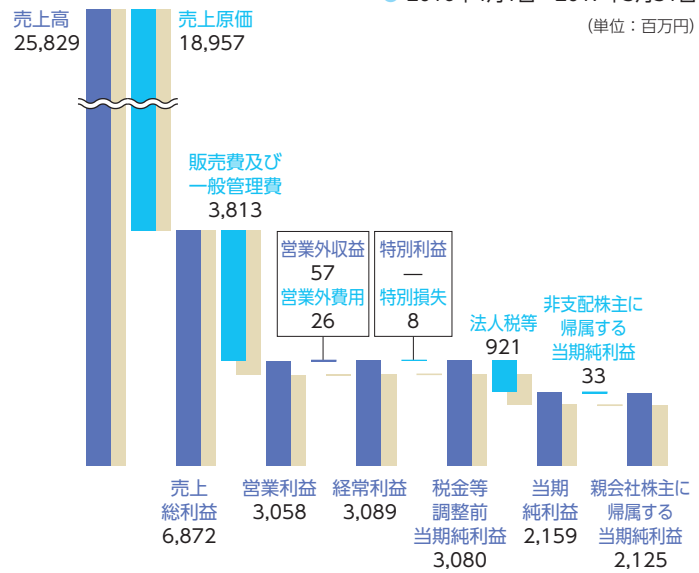


損益計算書の概要

■ 第39期の状況

● 2016年4月1日～2017年3月31日

(単位：百万円)

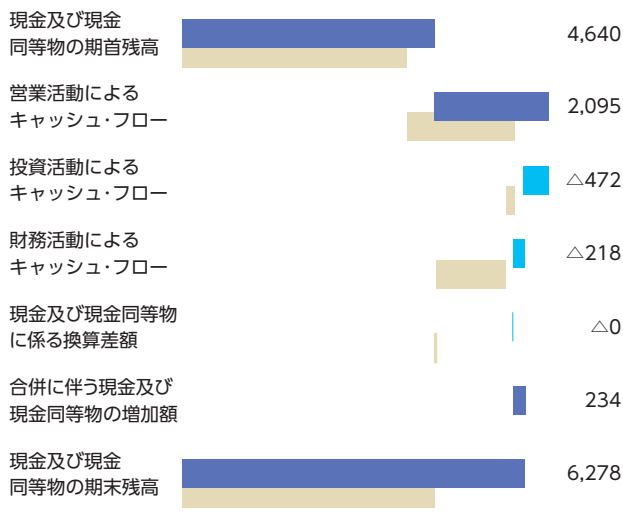


キャッシュ・フロー計算書の概要

■ 第39期の状況

● 2016年4月1日～2017年3月31日

(単位：百万円)



「数字」で見るエイジス

「総合順位」が過去最高を更新、「DOE」も3%を超える

スプリングキャピタル株式会社は、上場会社のうち金融4業種を除いた東証業種分類29業種の全上場会社を対象として、その経営指標総合ランキングを四半期ごとに作成している。

同社は、2016年度の企業ランキング確定である、2017年度5月基準において、前年度に続いて過去最高順位を更新し、319位(全社：3,326社中)となった。これは上位からの比率で9.6%に位置している。

ここで、株主還元における“真の配当性向”と呼ばれ、欧米でも注目されている「DOE」(株主資本配当率)という指標を紹介する。これは、「ROE」と「配当性向」を掛けたもので、結果的に、株主資本からどのくらいの配当を生み出したかという「株主資本配当率」を表す。当然高い方が好ましく、その逆数(年)は「配当金だけで株主資本を何年で回収できるか」という期間を教えている。このDOEの数値は当期3.3%と全社平均の2.8%を大きく上まわった。「配当性向」のみを見ると、全社平均30.3%という数値に対して同社の数値は16.6%と物足りなく映るが、“真の配当性向”ベースでは大きく上まわっていることが分かる。



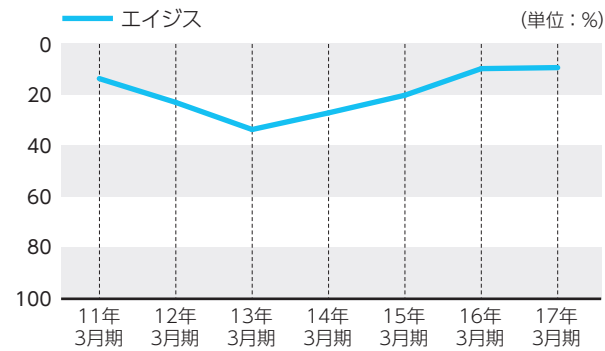
スプリングキャピタル株式会社
代表取締役社長 チーフアナリスト

井上哲男氏

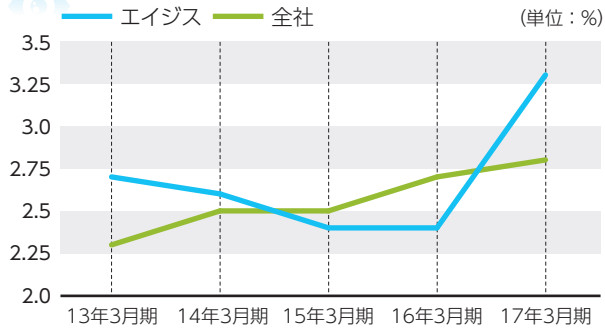
Profile

国内保険会社運用部門長を経て、UAMグループ、UAMジャパン・インクのチーフ・ストラテジスト兼日本株運用責任者に転身。その後、プラウド投資顧問、QUICK、アジア最大規模のファンドオブファンズであるMCPグループで同職を歴任後、2014年にスプリングキャピタル株式会社代表に就任。30年におよぶファンドマネージャーの経験を活かした株式市場・銘柄分析が機関投資家、個人投資家から高い支持を受けている。日経CNBCテレビ「夜エクスプレス」、ラジオNIKKEI「アサザイ」キャスター。

経営指標総合ランキング
上位からのパーセンテージ



DOE (株主資本配当率) 推移



株式の状況

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	2,849名

大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
有限会社斉藤ホールディングス	941,500	17.48
齋藤 昭生	706,780	13.12
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	479,300	8.90
齋藤 茂男	203,900	3.79
小林 美保子	191,800	3.56
齋藤 泰範	127,670	2.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	111,500	2.07
清水 昭順	80,070	1.49
エイジス従業員持株会	70,280	1.30
株式会社SBI証券	65,500	1.22

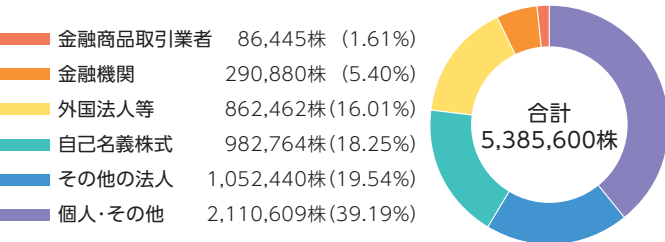
(注)当社は、自己株式982,764株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

利益配分に関する基本方針

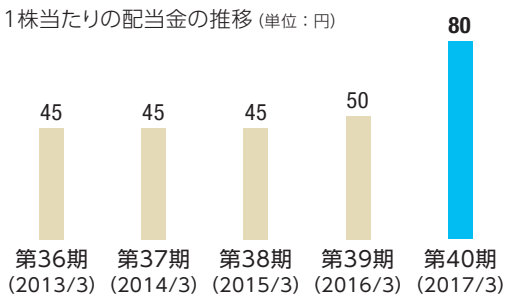
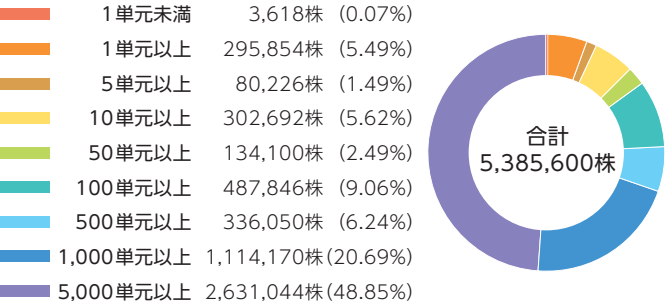
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重点課題と位置づけており、長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。

当期の配当につきましては、1株につき期末配当80円とさせていただきます。

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



会社概要 (2017年3月31日現在)

会社名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO., LTD.)
資本金	475百万円
設立年月日	1978年5月23日
従業員数	253名(671名 ※連結)
営業拠点	直営49ヵ所 FC37ヵ所 (合計86ヵ所)
事業内容	実地棚卸サービス
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 千葉銀行 みずほ銀行 三井住友銀行
ホームページ	http://www.ajis.jp

取締役および監査役 (2017年6月29日現在)

代表取締役社長	齋藤 昭生
常務取締役	高橋 一人
常務取締役	竹之下 正夫
取締役	山根 洋行
取締役	福田 久也
取締役	森 和弘 (社外取締役)
常勤監査役	増子 泰由 (社外監査役)
常勤監査役	鎌田 陽一
監査役	船橋 茂紀 (社外監査役)

エイジスグループ (2017年3月31日現在)

